

岐阜県立土岐商業高等学校

校 長 浅 井 芳 仁
 学校所在地 土岐市土岐津町土岐口1259-1
 電 話 0572-54-1291

1 会議の名称 岐阜県立土岐商業高等学校 学校評議員会（第2回）

2 会議の構成（敬称略／50音順）

| | | |
|----|---------|------------------|
| 委員 | 石 原 孝 治 | 土岐市土岐口財産区議長 |
| | 犬 塚 和 世 | 元土岐商業高校育友会役員 |
| | 太 田 雅 也 | 東海旅客鉄道株式会社 土岐市駅長 |
| | 竹 下 啓 太 | あいちビジネス専門学校 校長補佐 |
| | 土 屋 早百合 | 土岐地区更生保護女性会理事 |

| | | |
|-----|---------|-----------|
| 学校側 | 校 長 | 浅 井 芳 仁 |
| | 教 頭 | 野々山 伸 一 |
| | 事 務 長 | 老 田 晃 聖 |
| | 教 務 主 任 | 村 橋 昌 則 |
| | 生徒指導主事 | 中 澤 正 仁 |
| | 進路指導主事 | 水 野 智 恵 美 |
| | 教務部（記録） | 若 尾 昌 彦 |

3 会議の目的

学校運営や教育活動等について地域の有識者や関係機関・団体等の代表者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進し、生徒の健やかな成長を図る。

4 会議の開催 日 時 平成30年12月4日(火) 14:00 ～ 15:15

場 所 土岐商業高等学校校長室

出席者 委員5名 学校側7名 計12名が参加

*校長の挨拶後、本校の教育について説明し、意見交換を行った。

5 会議の概要

テーマ（1）：本校の教育について（本年度の成果と課題）

各分掌（教務部、生徒指導部、進路指導部）より、外部評価アンケート等の結果を踏まえて本年度の成果と課題についての説明を行った。その主な内容は下記のとおりである。

（1）教務部

（ア）学力の定着

①生徒の家庭学習に対する実態把握

家庭学習ができていないという課題に対して、日ごろから意識を高めるよう取り組んでいる。意識して取り組む生徒がいる一方で、学習調べの結果を見ると、中間考査時と比べて期末考査時の学習時間が若干少ないことが心配である。特に進路決定後の3年生が意欲的に取り組むよう働きかける必要がある。

②全職員による研究授業の実施

研究授業週間については、生徒が非常に落ち着いて授業に取り組んでいる半面、生徒参加型授業への取り組みは十分と言えないため、引き続き今後の課題として取り組んでいきたい。

③資格取得状況

資格取得状況の説明。全商1級3種目以上合格という目標に対して、前年、前々年は100名を超える合格者があったが、本年度は100名の合格を達成することは難しい見通しである。

（イ）積極的な広報活動の展開

①東濃西部地区中・高合同進路指導研修会

東濃西部地区中・高合同進路指導研修会では、中学校の進路を担当の先生方に対して、商業高校についての理解を深めていただけるように説明を行った。

②中学生1日体験入学

地区の中学生が減少する中、400名を超える参加者があった。ぜひ入学希望につなげていきたい。

③岐阜県ふるさと教育週間

昨年の来校者16名に対して、本年度は57名の来校・見学をいただいた。特に本年度は本校保護者にも見学していただくことができた。

④中学生保護者訪問

中学校側で保護者会行事にされるところが出てきており、5月6月にバスでお見えになるところが増えた。

⑤東濃西部地区公立学校合同説明会・相談会

来年度は先生方の会議の都合で中学校が午前授業となる日があるため、その日程に合わせて開催し、中学生に参加しやすいように配慮していきたい。

⑥入学定員の削減

来年度の入学定員については、クラス数は5クラスを維持し、各クラス5人ずつ定員を減らして35人学級とし、本校では25人減員する。

なお、岐阜県下では全体で440人の定員減があり、うち商業が345人減員している。こ

れについては、本校だけではなく県下の商業高校全体で対策していきたい。

(校長より補足) ベネッセの基礎学力テストを3年間やっている。高校3年間で偏差値を下げないことが大切と言われる中、本校と市岐商だけは偏差値が上がっている。また、本校生徒の40%が就職する現状において、地域の企業にとっても定員減は大きなマイナスとなるため、ぜひ主張していきたい。

(ウ) 特色ある学校・学科作りの推進

来年度は商業科目「課題研究」に、国語科教員を一人加え、表現力の向上や4年制大学希望者の小論文指導などのための講座の開講を計画している。

(エ) 校務の効率化と情報の共有

e-教務の活用により進路関係手続や成績処理等の校務が円滑に行われている。

(オ) その他

本年度、産振棟に40台のパソコンが整備されたため、教育用の環境も整ってきた。

(2) 生徒指導部

(ア) 交通事故の現状について

本年度は現時点で15件起きており、この数年で一番多い。内容としては、自損事故と対自動車事故は同じくらいある。

1年生が多く、これは運転技術の未熟さが原因であると考えられる。

登下校中に多く、下校時は特に対自動車事故が多い。

加害事故もある。本校では、もしものために自転車登録時には必ず任意保険に加入してもらっている。

事故防止のために、交通安全講話等による啓発や、学校独自に「土岐商交通安全の日」を設定するなどの活動を行っている。

(イ) 遅刻について

年々減少してきている。

進路決定後の3年生の遅刻が増えないように声掛けをしていく。

(ウ) 身だしなみ・挨拶について

身だしなみの指導を隔月に減らしたが、とくに問題となることは無い。

挨拶については、以前「元気がない」と言うご意見をいただき、元気な挨拶を折に触れて呼びかけている。

(エ) 問題行動の現状について

問題行動の件数は、現時点で5件であるが、最近では情報モラルに関するトラブルが増えてきており、問題点が分かりにくく、対応に苦慮している。県ではネットパトロールを外部に委託するなど、力を入れてきており、県全体では700件の問題が発見された。本校では今のところ報告は受けていない。

(オ) 教育相談の現状について

いじめについては、0ではない。定期的に教育相談アンケートを実施し、その結果を見て、気になる生徒全員に面談を行い対応している。

(カ) MSリーダーズの活動について

資料のとおり活動を行った、情報モラル・交通安全については「半分青い」に出演した「奈緒」さんに来校していただき、パネルディスカッション形式での講話を行った。

(キ) 部活動の成績について

本年度現在までの部活動の成績について、各部の上位の成績は資料のとおりであるが、資料以外にも全国大会出場の部が増えている。

(3) 進路指導部

(ア) 目標実現に向けた今年度の主な取り組み

1年生は大きな行事として2月にWEP（インターンシップ）があるので、そのための取り組みに時間をかけている。また、その前のキャリアガイダンスでは、進路に対して考える機会となっている。

2年生のキャリアガイダンスは、キャリア教育の推進のために厚生労働省から予算が出ており、その予算で行った。

(イ) 成果と課題

学力低下の影響を心配していた。しかし、就職についてはかつてない売り手市場となり、よい成果を得られた。進学についても各自がとてもよく努力しており、結果はこれから出てくるが、よいと期待している。

求人数は去年の1.2倍と大幅に増加している。しかし、書類の不備が多かったことが課題である。

他校と比べても、きめ細かいキャリア教育ができていると自負している。

3年生が進路が決まって気が抜けてくるのではないかという心配があるが、本校では人としてのマナー指導ができていることが強みであると考えており、今後も指導していく。

(4) 質疑応答

質問1：来年度入試の定員削減が全学校一律なのではなく、商業高校に多いのはなぜなのか。

回答1：本校は、工業高校などと違って単クラスが単学科の小学科制ではないことで削減しやすいのではないかと考えられ、また、普通科高校は中学生の普通科志向（中学校の先生は普通科出身であることも影響があるのではないか）があり、商業科のメリットが説明しきれないことも原因ではないかと考えている。県下の商業科をあげて商業科の魅力を発信していかなければならない。

質問2：遅刻は他校においてもこんなに多いのでしょうか。遅刻を減らすための方策にはどんなものがあるのでしょうか。

回答2：他校と比べて良い方だと思う。校長・教頭・生徒指導部長が毎朝校門に立って生徒に声をかけている。生徒においては、学校に来る目的がない（見失う）と遅刻は増えると思う。また、欠席や遅刻については、保護者からの連絡を必ずもらっており、連絡がない場合にはこちらから連絡を取っている。これによってもかなり防げているのではないか。以前に比べると減ってきているので、現在の指導を続けたい。

質問3：南陵館は生徒がいないときに、同窓会などで使用させていただくことはできるのか。

回答3：鍵の管理が必要なため、本校職員を立ち合わせなければならないので、使用目的にもよりますが、勤務時間内であれば対応できるかもしれません。早めに連絡がもらえればできるかもしれません。

質問4：交通事故について、本年度は4月から7月にほとんどが起きており、8月には1件のみである。これは、講話等のおかげではないか。講話などを早くやれば、その分効果もあるのではないか。

回答4：4月はどうしても新入生の運転技術の未熟さで自損事故が増えてしまう。対策していきたい。

質問5：就職も進学も地元志向が強いことを感じる。大学進学で国公立に行けても地元志向のためにチャレンジしていないようで、せっかく力とチャンスがあるのにもったいないと感じる。

回答5：昨年から東京へ行きたいという者が増えてきているが、やはり地元志向は強く、進学については、遠くの国公立より地元の私学への希望が多い。また、実力があっても指定校推薦狙いで、難関校へのチャレンジが少ないと感じている。

テーマ（2）：意見交換

- ・校則について、資料の15ページから22ページを参照して教頭が説明し、意見をいただく。

本校では、生徒手帳と言うものがなく、入学時の案内と入学当初に使う「研修のしおり」で説明している。現在の状況に合わないことについて、ご意見いただきたい。

頭髪について、地毛の色が薄いという生徒については「異装届け」で対応している。また、頭髪については口頭での申し入れだけでなく、文書で明記することになっている。そのため、「2頭髪」の項目に（6）の項目を追加した。

意見1：水泳をやっている生徒の頭髪は髪の色が抜けてしまう。これは頑張れば頑張るほどに色が抜けてしまうのだから仕方のないことである。また、留学生が増えてくることもありうる。対策は早めに準備しておいたほうが良いのではないか。

意見2：魅力ある商業高校が中学生に伝わっていないのは残念である。

意見3：遅刻については、JRではあまり度重なりとお辞めいただくことになる。また、常習者にはソフトウェアによる睡眠管理も行っている。遅刻常習者には、そういった管理も必要ではないか。

意見4：最近、挨拶の声が小さいと言われたとのことであったが、他校の生徒に比べて本校の生徒は大きな声で挨拶してくれていると思う。言われているような問題はない。

進学は、商業高校生枠については中学生にはわかりづらい。具体的な大学名などもあげて説明していったらどうだろうか。中学生の進路選択の参考になると思う。

意見5：ここ数年で登校坂でのあいさつが変化してきた。以前は部活動（運動系）の生徒が中心であったが、今はそれ以外の生徒たちも挨拶をするようになっている。

部活動のパワハラが問題になっている。問題にならないように気を付けてほしい。

意見6：服装も他校と比べてとても良く、先生方の指導の賜物だと考えている。南陵祭でも見に来たが、高校生らしい高校生の姿でいてくれてホッとす。

意見7：学校の規模について考えると、甲子園に出場している公立高校は7から9クラス規模がほとんどである。規模の大きな学校の方が能力を持った生徒が多く集まり、お互いに切磋琢磨して、力を発揮しやすいと感じている。

県の新規事業として、地域の活性化事業に取り組んでいる。昨日も指導主事が来てその場で発表をしたが、土岐市の要職にある方にも聞いていただけるとよいのではないかとのアドバイスを得た。ぜひ土岐市関係者の皆様にも聞いていただきたいと考えている。

6 会議のまとめ

今回ご意見頂いた、商業高校の魅力発信や、交通事故対策、校則に関する早期見直しなどを、今後のより良い学校運営に生かしていきます。

今後ともよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。